

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo@etsuin@wing.ocn.ne.jp



「未安心のひと
も、すみやかに
本願真実の他力
信心をとりて、
わが身の今度の
報土往生を決定
せしめんこそ、
まことに聖人報恩謝徳の懇志に、
あいかなうべ
けれ」『御文』三帖目九
通。去る十一月五日から
八日まで、宗祖の遺徳を
偲び、三條別院お取り越
し報恩講が厳修されまし
た。五日の報恩講お待ち
受け音楽法要を皮切りに、
六日の初日中からは信明
院鍵役の御参修のもと三
昼夜の法要が勤められ、
満堂の本堂に念仏の音が
響きわたりました。

お取り越し報恩講厳修

夜の演劇「シアターサンジヨーゴボー」など、新しい試みも

■三昼夜の法要が厳修される

総勢七十七名の合唱団と十七名の教区内女性僧侶が外陣で勤めるお持ち受け音楽法要からはじまったお取り越し報恩講。初速夜からは三声声明会を中心とした助音方が力強い声を響かせ、内陣には教区内寺院のご参勤が多くありました。御伝鈔は上巻（五日）を森田成美輪番が、下



【習礼を重ねた女性僧侶による助音】



巻（六日）を佐伯祐晃氏（第十四組靈善寺）が拝読しました。
御俗姓は藤井玄珠堂衆が拝読しました（七日）。



【森田輪番（上）、佐伯氏（下）】

■法話講師

五日、六日の法話講師は、柳野明仁氏（愛知県本澄寺住職、三河すーぱー絵解き座座長）。琵琶の弾き語りをしながら視覚・聴覚に訴えかける絵解き法話で、親鸞聖人の生涯を語られました。七日、八日の講師は寺本温氏（長崎県真蓮寺住職、長崎教区教化本部長）。駐在教導も長く経験されており、親しみやすい口調で、信心を語られました。



【琵琶の弾き語り。迫力ある絵解き法話】



【真宗本廟教化教導も務められている寺本氏】

■**帰敬式**
六日、七日に信明院鍵役執行のもと、帰敬式が行われ、十三名が法名を受け、新たに仏弟子となりました。

■**駒札の新調**
これまで使用してきた駒札（第十八組高念寺故・廣川彰恩氏による書）が老朽化し文字の判読が難しくなったため、三条別院書道教室「東友会」指導の木原光威先生に、新調した駒札の筆耕を依頼しました（写真は表紙）。

■**三条の行事としての「お取り越し」**
もう一つの課題として、三条の三大宗教行事の一つと言われているお取り越し（他の二つは八幡宮の「三条まつり」と本成寺の「鬼おどり」）ですが、地元三条の方々の参詣が減ってきていることが挙げられます。地元の方に親しんでいただくようと、このたび「シアターサンジヨゴボー」を初開催しました（後の記事で詳述）。

『御文』には、私が信心をいただくことが報恩なのであると蓮如上人は述べられています。宗祖御遠忌法要以来、報恩講をめぐるさまざまな

課題が見えてきましたが、その一つに現代人の「法要離れ」があり、毎年毎年欠かさず勤められる、一年で一番大事な法要であるお取り越し報恩講をいかに勤めるのか、報恩講実行委員会を中心に検討を重ねてまいりました。さまざまなが思いがありますが、法要離れであるからこそ、法要を大事に勤めていかなければならないという意見も強くあります。仏法を「伝える」努力と、報恩講を勤める一人一人の姿勢の中で仏法が「伝わる」ことの狭間で、継続して考えていく必要があるのかもしれませんが。報恩講実行委員会を中心に、教区内の多くの御寺院・御門徒の力添えを得て勤められたお取り越し報恩講。このたび無事に円成を迎えることが出来たことを、御礼申し上げます。



晨朝法話講師の藤岡正典氏（右上）、星野義孝氏（右中）、石塚祐堂氏（右下）。
鍵役接待の坊守会役員（左下）。

シアターサンジヨゴボー初回公演！



お取り越し報恩講の一環として本堂において、大規模な演劇を行う初の試み「シアターサンジヨゴボー」第一回公演「怪異譚海坊主（かいたんうみぼうず）」が、六日に行われました。演目の「怪異譚海坊主」は、突然発生する怪異現象を通し、ある僧侶の内面と人間の有様を表現する演劇。今回の公演では、劇団☆ASKの劇団員九名のほか、教区内僧侶十二名が出演。当日は肌寒い気温の中、駐車場、会場整理など延べ一八名の有志のスタッフに参加していただき、約三〇〇名の来場者に演劇をお楽しみいただきました。演劇本番では、プロジェクトシンマッピングを利用した演出と、劇団員と僧侶による宗教的雰囲気醸し出される演技で、十一月の寒さにもかかわらず、多くの方に楽しんでいただきました。来年も継続して第二回公演を行う予定です。ぜひご来場ください。（森尻）



くください。（森尻）

三条別院に想う

以前、何気なく電子辞書で「三条」と引いたら「越後の浄土真宗の中心地」と出ていて驚いたことがある。それならば三条別院は、そのまた中心。

その三条別院と私とのかかわりは、お取り越しの助音に呼んでもらったことから始まる。皆で大声でお勤めするのが何となくうれしく、御満座の後の達成感は格別だ。お取り越しの時しか会えない人もいて、終わると来年の再会を誓って帰って行く。一年のサイクルの中にお取り越しが入っているという感じである。

最近はその他にお取り越しの仏華も立てさせてもらっている。以前は花講さんが立てていたようだが、その人たちもいなくなり私にもお鉢が回ってきた。

私が仏華を始めたきっかけは、知人に誘われて長野のあるお寺のお華立てを見学に行ったことから始まる。木（ボク）を使い脚立に上がって巨大な仏華を立てている様子を見て衝撃を受けた。あまりの規模に仏華のイメージ



ジが全く変わってしまった。そして自分もやってみたいと思うようになった。

新潟で誰か仏華を教えてくれる人はいないかとあたりを見回したら、意外にもすぐ近くに名人がおられた。すぐその方を講師にして、組で講習会をはじめた。その先生は自分の技術のすべてを惜しげなく私たちに教えてくれた。講習会の打ち合わせに先生のお宅に伺った時も、お茶をいただきながら仏華のお話をいろいろ聞かせていただいた。一緒に山に材料探しに行ったり、講習会のカバン持ちをしたこともある。私の仏華の基礎はこの先生に教えていただいた。

その後その先生はお亡くなりになったが、それと前後してまたしても不思議な縁で今の先生に出遇った。その先生は昨年の別院御遠忌の仏華指導に来ていただいた方で、材料に応じて自由自在に仏華を立てられる。いつ拝見してもその技の凄さは私の想像をはるかに超える。ただ自由自在なるがゆえにその技術を掴むのがむづかしい面もある。私の場合、幸いにも最初の先生に基礎をしっかり教えていただいていたので、スムーズに受け入れることができた。今考えても仏華に関して自分は本当に運が良かったと思う。

仏華を含めて荘厳とは浄土を現わすものだと思う。「浄土」真宗を名告る以上、これが浄土だというものを見せなければ看板に偽りありだ、その意味で仏華も声明も法話も浄土荘厳、浄土現成に他ならない。ただ私はそれだけではない

と思う。

お取り越しの晨朝に行く朝早くから駐車場の係の人たちが誘導している。後堂に行けばお茶の接待を準備している人たちがいる。入り口では下足係りの人たちがニコニコと私たちを迎えてくれる。本堂の中には遠方から来た参詣者もたくさんいる。そういう人たちもすべて含めて浄土荘厳だと思ふ。内陣でお勤めする人や法話する人も、本堂の外で下足番や駐車場整備をする人も荘厳と言う事では何ら変わりない。そういう人たちすべてで浄土を荘厳していく。

荘厳とは浄土建設。「浄土真宗は建設業だ」というのが私の持論である。浄土建設業。浄土建設は内陣荘厳から始まって、どんどん外へ外へと広がっていく。境内から飛び出して社会のなかに浄土を建設していく。「越後の浄土真宗の中心」三条別院が、「越後という浄土の中心」になる。そしてその中心となるのが内陣荘厳ではないかと考えている。今年もお取り越しの季節がやってきた。

（第十五組本龍寺住職 白鳥賢氏）

○次回の「三条別院に想う」は、

細川 敏祐貴氏（第十七組護念寺）より

ご執筆いただきます。

改観寺雑巾講 雑巾贈呈式



十月七日に
第十九組改観
寺様より雑巾
二百六十五枚
を贈呈しても
らいました。

いただいた
雑巾は、十月
二十五日にあ
った秋の別院
奉仕研修会
(清掃奉仕、
おみがき)で

さつそく使わせて頂きました。昨年一月には、お寺で雑巾を縫うところを実際に体験したため、一枚一枚思いが詰まっているものだと感じながら使わせてもらっています。

改観寺雑巾講の皆様、有難うございました。

(藤井)

煤払い奉仕団のご案内

当別院では毎年十二月に、一年で溜まった埃を払う「煤払い奉仕団」を開催しております。本年は左記の通り行います。

どなたでも参加できますので、ぜひご連絡下さい。

◇日時 十二月十一日(日)
午前九時より正午まで

◇場所 三条別院本堂

◇持ち物 勤行集、念珠

◇締切 十二月八日(木)までに当別院までご連絡ください。

◇その他 ①清掃ですので、動きやすい服装でのご参加ください。

②昼食を当方で用意いたします。

除夜の鐘・修正会のご案内

除夜の鐘

◇日時 十二月三十一日(土)
午後十一時四十五分より

◇場所 三条別院鐘樓堂

◇受付 教区同朋会館

○受付場所にて、温かい飲み物を振舞います。
修正会

◇日時 二〇一七年一月一日(日)
深夜午前零時より

◇場所 三条別院本堂 旧御堂

○お勤め後、輪番による新年の挨拶

★除夜の鐘×今泉×いつもから

除夜の鐘の整理券を「今泉(そば)」または「いつも」から(ラーメン)に持参すると、五百円で年越しそば(ラーメン)が食べられるなど、特別サービスが受けられます。

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日のつどい」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◇日時 十一月二十八日(月) 午前十時より

◇会場 三条別院本堂

◇お勤め(御命日 日中法要)

正信偈 真四句目下

念仏讚 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

永寶 卓氏 (第十組 浄敬寺)

— 『歎異抄』に聞く【第十一章】 —

◇今後の講師

十二月 石塚祐堂氏 (第十五組 長泉寺)



毎月十三日の前門首のご命日(両度の命日)に行っている定例法話会を左記の通り開催いたします。

◆日 時 十二月十三日(火)

午後二時三十分より(一時間程度)

◆場 所 三条別院 旧御堂

◆講 師 藤井 淳(三条別院列座)

◆講 題 「ゼロからわかる真宗入門 ④浄土」

九月から十二月は三条別院列座が「ゼロからわかる真宗入門」として四つの要語を講題として法話します。今回で最終回となります。

その 他 の 講 座 案 内

○別院声明教室(全五回)

〔月一回、午後六時〜八時〕

八月十八日(木)〔済〕、九月十五日(木)〔済〕、十月十三日(木)〔済〕、十一月十七日(木)〔済〕

十二月十五日(木)

講 習 内 容 真宗大谷派勸行集(赤本) 八・九・十・十一月

讃 歌 (赤本、および音楽法要の歌曲) (十月)

講 師 永賢晴香氏(第十組浄敬寺) 八・九・十・十一月

白鳥道子氏(第十五組本龍寺) (十月)

参加費 五〇〇円/回

○別院書道教室

〔月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分〜八時〕

講 師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 二七〇〇円(テキスト代含む)

○三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、聞法会を開催しませんか?

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎夏加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注)

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○庭講(清掃講)

二〇一五年九月に結成されたお講です。現在講員大募集中です。ぜひ、御一緒に清掃奉仕と毎月十三日(二月、八月は除く)の定例法話の聴聞をしませんか!

○三条別院有志の会

もともと三条別院のお朝事にお参りしているご門徒からはじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。

◆◆編集後記◆◆

今年も十一月五日から十一月八日までお取り越し報恩講が厳修されました。

お取り越しが過ぎるともう今年も終わりだなと思う反面、どこか寂しい感じがあります。自坊は高田教区にあるため、三条別院に入ってから高田別院の報恩講に出仕して、三条別院のお取り越し報恩講を迎えるようにしています。初めて出仕したときは、自分からではなく、ある住職に「高

田教区は出仕当番組が割り当て制なので、若い人が出るように」と言われて最初はいやいや出ていました。「和讃が当たりませんように…:とか余間がいいな…」とか思い座っていました。浅はかだったなと思います。最近では、三条別院でのお取り越し報恩講での動きを思い描きながら出仕しています。

三条別院に来てからは報恩講に思う気持ちが変わってきたように思います。今年一年、私は親鸞聖人の教えを頂きながら、どのように送れたかなどか思い迎えています。

今年もわずかとなりましたが、別院の行事でいえば、煤払い、そして除夜の鐘を残すところとなりました。たくさんのご参拝お待ちしております。教区内のご寺院、ご門徒の皆様、お取り越し報恩講のご協力ありがとうございました。

(藤井)

